

ぼけますから、よろしくお願ひします。

～おかえりお母さん～

ドキュメンタリー作品



母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道
人が生きて老いて行く先には、必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして感じてもらえる物語
になったと思います。

信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)



©2022 「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえり お母さん～」製作委員会

口コミが広がり異例のロングランになった『ぼけますから、よろしくお願ひします。』(2018)

90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

2018年。父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためのと98際にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春に新型コロナが猛威をふるい面会すらまならなくなる。

かんたく さつえい かた のぶともなお こ
監督・撮影・語り: 信友直子

プロデューサー: 濱 潤・大島新・堀 治樹

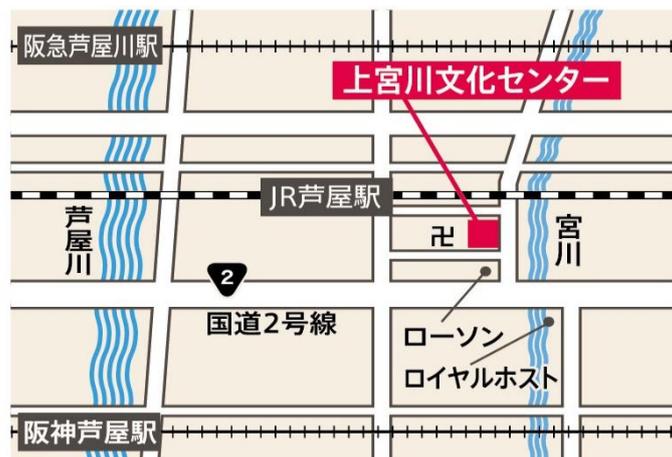
せいさく いなば ゆき こ
制作プロデューサー: 稲葉友紀子

へんしゅう めみ た けん さつえい みなみ ゆきお かわいてるひさ
編集: 目見田 健 撮影: 南 幸男・河合輝久

おんきょうこうか かねだともこ へんしゅう いけだ さとし
音響効果: 金田智子 ライン編集: 池田 聡

せいおん とみながけんいち
整音: 富永憲一

(2022年/日本/101分/カラー/バリアフリー字幕版)



阪急芦屋川・阪神芦屋から徒歩約20分、JR芦屋から約5分